

「シクラメンのかほり」

12月、冬本番になると花屋で扱われる花の種類は、他の季節よりも少なくなってしまうのですが、その中でも一層華やかなのがシクラメンです。トルコやギリシャ等、地中海沿岸地方が原産で、日本には明治時代末期に入ってきました。

「シクラメン」はギリシャ語の「kikios (円)」という言葉が語源で、その球根（塊根）が丸い球体であることから、こう呼ばれるようになりました。和名としては「豚の饅頭」と呼ばれています。面白い名前ですが、原産国のトルコやイスラエル等では、野生の豚が自生しているシクラメンの丸い球根が好物で食い荒らしていたことから、豚にとってはパンのようなものと言われていたそうです。これが日本に入ってきた時に、パンから饅頭になり「豚の饅頭」と名付けられたとのこと。その後、たいへん綺麗な花を咲かせるのにそれでは可哀想だと牧野富太郎博士が、花の形状が下を向いていることから「篝火草（カガリビソウ）」と名付けました。

では何故、花は下を向くのでしょうか。地中海沿岸では花が咲く冬は雨が多く、上を向いていると水に弱い花粉が濡れてしまい、受粉しにくくなるため、花を下向きに咲かせる事で雨から花粉を守っているのです。

さて、シクラメンといえば、かなり昔に「シクラメンのかほり」という歌が流行ったのをご存知の方も多と思います。実はほとんどシクラメンには香りはありません。その昔、原種だった頃のシクラメンには香りがありました。しかし花の人気が増して品種改良が進み交配を繰り返しているうちに、段々と香りが無くなってしまったのです。しかし、この「シクラメンのかほり」の大ヒットによって、日本では香るシクラメンの要望が高まりました。現在はバイオテクノロジーの研究が進み、ほのかにスズランやヒヤシンスに似た香りを持つシクラメンが開発されています。



鎌野

「英樹還暦！」

私、勝亦英樹。1964年（昭和39年、1回目の東京オリンピックの年）生まれ。2024年、ついに還暦となりました。還暦になったらどうしても言わなければなりません。「英樹還暦！」。今年一年は、これで通そうと思います。

子供の頃は、自分が60歳になるなんて、想像できませんでした。長いような短いような60年でした。お陰様で今のところ仕事もできるし、食べ物も毎日美味しくいただけ、睡眠は、6時間ぐらいは取れていますし、夜中トイレに起きて1回ぐらいだし、毎日ではありません。しかし体重は112kgから減らずに停滞しております。

7月に満60歳になると年金が貰えます。年金は死んだら当然貰えませんが、60歳になったら申請して必ず貰うようにして、その分私の給料を下げて、社員さんの給料UPに当てたいと思います。もちろん仕事はいままで通り続けますけどね。中小企業の経営者なら皆、同じ様なことを考えて居るのではないのでしょうか。国は休日を増やし有休や産休をちゃんと取らせ、残業を減らして給料を上げろと言うけれど、今の我々中小企業にどうやってそれを実現させると言うのでしょうか？やり方をご教授いただきたいものです。こんな状況は、本当に正常なのでしょう？北欧の様な、夢の年金生活は、日本では本当に夢の話ですね。若い頃から、個人年金の401Kというのもやっていたので、そちらも60歳から貰おうと思いますが、とても年金だけでは生活出来ません。キックバックの裏金も、我々にはありませんしね。



英樹

日頃より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、年の瀬も間近まで押し迫り、今年も残すところ数日となりました。今年一年、何事もなく過ごせたことはひとえに皆様方のご指導の賜物と心より感謝いたしております。



新しい年がより素晴らしい一年になりますよう、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



配り

第295便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 静岡県市中山518番地

上口のぬかるんだ土に蹄跡毎夜カッポの鹿の一角
ねがみともみ



二度とない人生だからめぐり会い不思議に思い大事にしよう
林なをみ



空海に帰依し祈りし女人等に心残して高野山下る
勝亦りっ子



取扱説明書

読んでますか？トリセツ。取扱説明書。色々なものについてきまずね。家電だったり設備機器だったり。スマホや車にもありますね。最近紙のトリセツがなくなってインターネットで参照するようになっていたものもありますが、見たことも使ったこともないような器具であればある程度トリセツを見ながら使ってみるのですが、使ったことがあるような器具ではなんとなく経験的に使えてしまうので、トリセツを見ない事も多々あると思います。

今回はなんでこんな話なのかって言いますと、最近ちゃんと読んだんですよ、事務所のコーヒーメーカーのトリセツ。つまみを回すとコーヒーの量を5mlごとに選べてカップのマークのボタンを押すとコーヒー豆が挽かれて自動的にドリップされるんです。便利ですよね。直感的に使ってました。毎朝一杯のコーヒーを飲んでから仕事場に向かうのですが、コーヒーの量を増やすとちょっと薄いな・・・って思っていたんです。それが数日前、何気なく目を通したそこに豆の量の調整が出来ると書いてあるじゃありませんか。マイルド、ノーマル、ハードの三段階に挽けるのでした。そして僕は（おそらく他の社員も）ずっとマイルドで挽いていたのです。カップのマークのボタンを一度押すとマイルド。そうすると自動で豆を挽き始めるのですが、その後ボタンを二回押しでノーマル、三回でハードと豆の量が変わるのでした。トリセツを読まなきゃ永遠に気付かなかっただろうと思います。日常で何気なく使っている器具、その性能を存分に引き出せていますか？お暇なときに一度普段使っているもののトリセツを読んでみてください。新たな発見があるかもしれません。いつもの生活がほんの少しだけ、本当にちょっとだけ、良いものになるかもしれません。



日々是新



PHP 12月号にあった松下幸之助氏の言葉。「日々是新」
PHPを読むようになってどのくらい経つのでしょうか。という私。恐らく20代前半で手に取ったと思う。心身共に良好の時は軽く読むのだろう、あまり言葉を拾わない。ちょっと疲れているときは、書いてある言葉が妙に頭にひっかかり、『そうなんだよねえ』などと呟いて、頑張ろうっかなと、やる気スイッチを押す。
若い頃は早起きがとても苦手で、宵っ張りだった。しかしながら年齢を重ね、否が応にも朝の早い時間に目が覚める。まあ早い時間に起きないと仕事に出かけるのに間に合わないです。その朝の時間に茶の間から玄関までをほうきで掃き出す。この時期は玄関を開けると大気は冷え、空はまだ陽が昇りきらず、夜と朝の混在した状態になっている。冬はとても寒いですが、昇りはじめた太陽の光はほのかに暖かく、朝の風景は神がかっているな、と思う。昔の人が太陽を拝む気持ちがわかるな・・・。当然、毎朝気持ちのいい天気ではなく、曇天の日もあれば嵐のような日もある。それでも玄関を開けて見る一日の始まりの風景は同じものは一日もなく、今日がただはじまる。
これに呪文のように、「日々是新」を呟いてみると、昨日は昨日、今日は今日。と思う。嫌なことがあっても、嫌なことを言われても、嬉しかったことや楽しかったことも、過ぎたこと。今日は今日。もしかしたら、急に人生の時計が止まってしまうかもしれないし、昨日までを憂いては、もったいない。と考えるようになったのは、やっぱり歳を重ねたからかなあ。「日々是新」現在、頭の中でぐるぐる反復しています。雑念を抱えながらですけどね。今日は今日。2024年、良い新年をお迎えください。

ねがみ

イノシシの丸焼き

先日、猟師さんのお話を聞きながらイノシシの丸焼きを食べるイベントに参加してきました。イノシシを食べるのは初めてではありませんが、丸焼きに興味を惹かれ長男を誘い申し込みました。会場は乙女森林第2キャンプ場です。

内容は、猟師さんの富士山での活動や獣害状況、罠のかけ方、罠を見たときの注意点、焼けたイノシシを部位ごとに解体してもらい食べ、その他の山の恵みということで黒文字のお茶を飲んだり、炒ってもらったどんぐり（しいの実）を食べたり、どんぐりコーヒーを飲んだりしました。イノシシも美味しかったけれど、イノシシ以外の体験もさせてもらえて良かったです。長男はとてもイノシシが気に入ったようでかなり貰いに行っていました。

祥子

